

## 平成31年度 第1回東大和市まち・ひと・しごと創生会議 会議要録

- 会議名 第1回東大和市まち・ひと・しごと創生会議  
開催日時 令和元年7月20日(土) 午前9時30分から11時30分  
開催場所 中央公民館201学習室  
出席者 (委員) 牧瀬委員(座長)、小島委員(副座長)、目黒委員、富田委員、水上委員、  
北原委員、高橋委員、松本委員(代理)、大塚委員、赤坂委員、浜田委員  
 (事務局) 田代企画財政部長、星野企画財政部副参事、雨田主任  
会議の公開・非公開 公開 傍聴者 1人  
会議次第 1 開会  
2 副市長あいさつ  
3 委員自己紹介  
4 事務局紹介  
5 座長あいさつ  
6 内容  
(1) 平成31年度まち・ひと・しごと創生に係る取組について(意見聴取)  
(2) 平成30年度政策集団PDGの提案の事業化の検討について(意見聴取)  
(3) 東大和市転入転出者アンケート調査報告書について(意見聴取)  
(4) まち・ひと・しごと創生に関する意見交換

### 会議の結果及び主要な発言

#### (1) 平成31年度まち・ひと・しごと創生に係る取組について(意見聴取)

委員:

東京都市町村市長会の広域連携事業助成金の活用について情報提供をお願いしたい。

清瀬市と読売広告社と共に行っているが、読売広告社はシビックプライドの事業を行政と取り組むのはほぼ始めてであり、かなり力を入れている。シビックプライドという言葉は、読売広告社が10年位前に商標をとっているもので、勝手には使えない。シビックプライドとは、市民の誇り・愛着をいい、これを高めるとUターンが増え、またNPO法人が多くなるという結果もある。そのため、少なくない自治体でシビックプライドを高める事業を行いつつある。一方で、シビックプライドが高まると、転出しないといわれているがそれを裏付けるデータはない。しかし、いったん転出するが、戻ってくる確立が高くなるという傾向も見られる。シビックプライドは、イベントが多いと高まるといわれている。今年度、シビックプライドを高める元を探るアンケート等を行い、来年度以降、事業展開をしていく。

東京大学との連携についてだが、未来ビジョン研究センターとも協定を結んだ。また東大IOGに職員を派遣している。今回を契機に、東大と連携し、学力向上をはじめ何かしらの事業を行いたいと考えている。

委員:

このまち・ひと・しごと創生に係る取組は、これまでの課題を踏襲して、これから課題解決に向け進めていくものであるが、その進め方は良いと思う。外から見ていると行政は計画倒れが多いものであるが、この取組は進捗チェックやPDCAがあつて良いと思う。進捗チェックやPDCAは、これからも続けて欲しい。

活気ある商店街づくり事業は、重点施策として継続して欲しい。商業は、まちの施策の中で大切である。こういう短期的な施策も良いが、長期的な施策は商工会等から情報を収集し学び、意見を取り組めるようにして欲しい。

PDGは、やって欲しいものがかなりある。この取組予定にPDGの提案が格付けされたの

は、とても嬉しい。1つでも2つでも取り組めるよう進めて欲しい。

ブランド・プロモーションとして民間の視点をどんどん取り込むのは、井の中の蛙になることを防ぐので良いことだと思う。

委員：

なぜ清瀬市と事業を行うのか。

事務局：

財政規模が近く、清瀬市も市のPR活動をさまざま行っており、東大和市と似ている面があるため、清瀬市と協働で行うことにした。

委員：

チャレンジショップ・シェアショップを実際に見てきた。カフェ、セミナー、キッズスペースがあり、女性の企業家の人にも良いものだった。ただ、店舗スペースを借りると月10万円くらいがかかったと思うが、ネットが盛んな現在においてこのレンタル料は、厳しいところがある。そうであるとしても、使いたい方にとって使える場であるのであれば、良いとも思う。

委員：

今は、モノからコトへの時代でもある。買う場所としてではなく、サロンとしても使えると良い。

委員：

東大和市は、商業地域が確立していないと思う。駅前のコレといえるものがない。用途地域の関係もあり難しいこともあると思う。また、駅前の雨水の問題も課題になっている。さまざまな面で仕方がないところもあるが、なかなか進まない。駅前の整備といえば、ビックボックスのみだと思ってしまうところもある。南街は、空き店舗化、高齢化が進んでいるように思える。南街は、昔の地区名で呼ぶ人もいるくらいであるので、商業地域として確立していないように思える。計画道路が進めば改善できるところもあるので、道路事業を進めて欲しい。

## (2) 平成30年度政策集団PDGの提案の事業化の検討について（意見聴取）

委員：

費用対効果の面があるが、そうであるならば、民間の協賛を得て行うのはどうか。例えば、府中では地元企業が東芝、サントリーの協力を得て周年事業として、地域貢献で事業を行おうということとなった。そこで市内の小学校全てに器材を提供し、ラグビー大会を行なった。タックルを行うと危険なため、タックルを行わないタグラグビー大会を開催しようと決め、先生に講習を行い、先生から児童に競技を教えた。その後、ラグビーワールドカップの開催が決定され、さらにタグラグビーは盛り上がりを見せた。現在も競技が続いている。府中の陸上競技場に、親子・OB・ラグビーのファンが見に来るほどの盛り上がった競技として続いている。そのため、岩隈選手などのスポーツ選手を呼ぶことも西武鉄道と協力すればできるのではないかと思う。

狭山丘陵の婚活は、おもしろいと思う。結婚したら、式のできるホテルを紹介するなどすれば、民間からの協賛をつのれるのではないか。

委員：

PDG提案事業のゆったりマルシェは、開催場所を駅前に限らずに、吹奏楽の子を呼んでハミングホールで行うなど、広がりを見せると良いと思う。

学力の向上についてだが、少し話がずれるかもしれないが、創業すら興味がない人にどう創業してもらうのかということが大事であると思う。例えば、小学校の授業にビジネスの時間を

設けてはどうか。小中学校で新しい取組としてプログラミングが始まる。このような形で新しい取組として、単なる学力のためだけでなく、ビジネスのおもしろみを伝えるもの、将来の地元に影響を及ぼすようなものを授業に足したら良いのではないか。

岩隈選手のようにそこまで有名な人やメディアに出ている人でなくても、市内にはいろいろな分野のプロ、社長、職員、農家等がいる。地元のプロ等を紹介し、マルシェにつながるようにするのも良いのではないかと思う。

委員：

マルシェを行う場所についてだが、相乗効果があるところとして、中小企業大学校やイトーヨーカ堂の店舗でやると良いと思う。

委員：

会社のテーマとして、地元とのコラボがある。地元の方は、地域のことを知っていて集客力があるからである。また、会社では、店舗を買い物だけの場所にしないことを重要視している。そのため、屋上でフリーマーケットの開催等を検討している。出展料は内容によるが、開催に当たっては、地元住民への説明会等が必要になる。市とコラボをすれば、こういった新しいこともやりやすい面が出てくると思われるため、市とも協力を続けたい。

委員：

PDGの事業提案の資料の中にあるにんじん作戦は、名称があまり良くないように思える。学力の向上のためには、自分たちで考えて自主的にやることが大事である。小学校の中・高学年くらいから自主性がある。その力を重んじてはどうか。一過性のにんじんは、効果が消えてしまうと思うので。また出張講師として市外から講師を呼ぶという提案であるが、市外ではなく市内の人を呼んではどうか。子が親になりまた子へと伝えるような仕組が市内でできれば、そこまでお金もかからずにできるのではないか。

### (3) 東大和市転入転出者アンケート調査報告書について（意見聴取）

委員：

東大和市は、日本一子育てしやすいまちを目指しており、生産人口の転入を増やそうとしているが、各市でも同じ目標を持ってやっている。他市でやっていないことをやり、差別化を図ることが必要である。他市の例として、あきる野市は交通費の補助を行っており、小平市はお買い物の補助を行っている。そこで、転入者や子育て世帯に税の優遇など何かが必要なのではないか。そしてそれは、地元に戻元されるものがないのではないか。今、プレミアム商品券をやっているが、転入者にプレミアム商品券であったり、マイカーのない人には子育てバスとしてちょこバスの優遇などを、やってはどうか。プレミアム商品券については、商工会の意見を伺いたい。

転入してきた人は、子どもが大きくなり進学するようになると出て行く傾向がある。それは、偏差値の高いところに若い親の関心が高いからである。教育水準を上げるのは、良い施策だと思う。正確なデータの分析はできていないが、そういう事実もある。

委員：

学力があるところについて、親の関心は高い。シュタイナー学園はまさにそういう状況がある。学校を中心に子育て世帯が集まっている。アンケートで表れているように、就学前の子には多摩湖の緑豊かなところは喜ばしいことであり、このアンケートでその数値上の裏づけも取れたのではないかと思う。

法政大学の多摩校舎は、自治体推薦で入学できる制度がある。高校の指定校推薦の自治体版である。

委員：

商品券でもなく若い人向けでもないが、ゆうゆう体操のポイント交換に商工会は協力している。ポイントの還元で2,000人以上の市民の方が参加しており、かなり人数が多い。こういったものの若い人向けのものがあると良いのではないかと。

#### (4) まち・ひと・しごと創生に関する意見交換

委員：

仕事の創生について、お伝えしたい。市役所本庁舎5階の就職情報室の状況として、来庁の人が減っている。職に就けていることの表れであり、良いことである。しかし、仕事に就けていない方もおり、その方々は市内で仕事ができる場所を探しているが、求人がない。ハローワークとしても、企業に求人要請を行っているが、東大和の企業からの求人は少ない状況である。市の方からも企業に対し、働く場を提供していただくよう積極的に働きかけをすることが良いと思う。

子育て世帯から、3時間くらい、ちょっと働きたいという声もある。機運が高まれば、企業も1人でも採用をとり、仕事により貯金も増え、消費も増えと好循環になるのではないかとと思う。

委員：

多摩モノレールの運賃が高く、学生割引が適用になっても交通費が厳しいところがある。値下げや補助等の動きはどうか。

事務局：

今、モノレールは、黒字経営となってきたところであり、これからさらに延伸も控えている。値下げの改定の動きは、情報が入ってきていない。

委員：

アンケートによっていろいろなことが見えてきた。子育て世帯は、外からの人だけでなく、今市にいる人も大切に、両方を大切にしたい。アンケートにもある市の売りは、自然が豊かで交通もそれなりに良いところである。もっと、アピールをしてほしい。狭山丘陵の活用として、学校単位や家族単位のセミナーハウスはどうか。山で過ごす生きた事業が出来る。これを求めてくる人がいる。活用の仕方が大事。PDGの事業提案にある450万円の教育は、どうかと思うところがある。実際に、PDGの発表を見たが、新鮮なものがない。ヨガやフラダンスは公民館でやっている。プロ野球選手を呼ぶことも、第八小学校で行っている。西武球団や巨人軍も来ていた。球団によっては、全校生徒に野球帽を配ったりもしていた。ゆったりマルシェは公民館でもすでにやっているものであり、やるのであれば場所が大事だと思う。駅前、駐輪場や駐車場代がかかってしまうので、イトーヨーカ堂やヤオコーのようにお買い物のできる場所が良いように思える。写真コンテストは、既に市で市民向けのものがある。プロジェクションマッピングは、企画としては画期的であるが、やる時間が午後7時40分から午後8時とのこと。どの世代のどんな方が集まるのか、なかなか想像ができない。子育て世帯は、ご飯やお風呂の時間であり、外出が難しい。本当に戦争に興味がある人しか行かないのではないかとと思う。イメージを見たが、銃撃や爆撃の音が暗闇で響くのはとても怖いと感じた。大人でも怖いものを子どもが見ることについては、心配がある。ここまでお金をかけずに別の方法で、平和を伝える方法があるのではないかとと思う。